

1

INDUSTRY

産業の息吹

**地域資源を
生かして
新産業を創造**

変革への意志が時代を開く

2011年3月11日、東日本大震災に伴う津波によって、東北地方の太平洋沿岸のほとんどが壊滅的な被害を受けた。尊い生命や財産だけでなく、地域に根差した産業の基盤もその多くが奪われた。

あれから約2年、各地で復興への歩みが着実に進められている。注目されるのは、ものづくりや農林水産業の現場において、これまでとは異なる新しい息吹が芽生えていることだ。逆転の発想ではないが、何もかも失ったからこそ、従来の枠にとらわれず、新しい日本の未来像を描くチャンスではないだろうか。

芽生えた新しい息吹を、持続可能な産業創造へとつなげるために、いくつかのポイントがある(#01)。まずは、地域資源を生かした地域起点の製品・商品づくり、誰でも自由に使える、地域に開かれた生産の場づくりによる新たな地域コミュニティの形成といった、地域に根づいた取り組みであることが最も重要なポイントだ。また、これまでの画一的な製造

流通販売のかたちには捉われず、たとえば、生産者と消費者の距離をなくしたり、手作りの価値を再興するといった新たな価値の実現も必要となる。そのための手段として重要な役割を果たすのが、ICT(情報通信技術)である。さらには被災地の将来を担う後継者、都会で得た知識や技術を携えてUターンやIターンを果たした人、被災地外に住む新しい協力者など、新たな人のつながりも大きな力を発揮する。こうした要素を、これまでになくしくみやビジネスモデルでまとめ上げる努力も必要だ。

ここでは、新しい産業の息吹を、ものづくり、水産業、農業の3分野から紹介する。今回取材した3つの取り組みは、人口減少や産業衰退など日本の多くの地域に共通する困難を抱えながら、時代に合った新しい産業のあり方を必死で模索し、一歩を踏み出した例である。停滞が続く日本の多くの市町村にとって、再生への大きなヒントになるに違いない。

#01 新たな産業創造のポイント

ものづくり、農林水産業の復興で地域の持続的な復興を

